

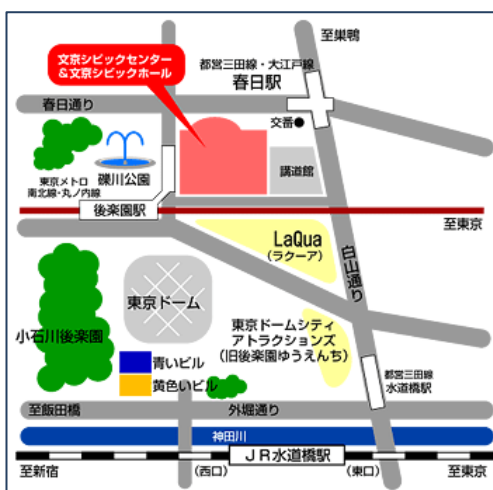
# 第72回 EVENING THEATER

# 歴史的 橋梁特集



東京都建設局所蔵

2013年4月12日(金) 開場 18:15 開演 18:45



## 文京シビックセンター2F

### 文京シビック小ホール

東京メトロ 後楽園駅・丸の内線 (4a・5番出口) 南北線 (5番出口) 徒歩1分  
都営地下鉄春日駅三田線・大江戸線 (文京シビックセンター連絡口) 徒歩1分  
JR総武線 水道橋駅 (東口) 徒歩9分

**入場無料**

ホームページにて事前参加申込みを受付ます。  
<http://committees.jsce.or.jp/avc/>



問合せ先：公社) 土木学会附属土木図書館 土木技術映像委員会担当 (野末, 坂本)  
電話：03-3355-3596 E-mail：library@jsce.or.jp

イブニングシアターは、CPDプログラム (2単位) です。会員証でCPDポイントの自動登録が可能ですのでご参加の際にご持参ください。

# — 上映作品 —

## 余部鉄橋の記憶



第23回映画コンクール 部門賞 (一般部門)

企画・監修：兵庫県香美町

制作：(株) キャメル

2007年 24分

この作品はおよそ100年もの間日本海の厳しい風雪に耐え、多くの人たちに支えられてきた鉄橋の歴史を軸に、そこに展開された人間ドラマや四季折々の美しい映像を織り交ぜながら、余部鉄橋の有終の美を貴重な土木遺産として記録・表現した作品です。明治後期から大正にかけて行われたルート選定や基礎・橋脚の建設、またその後の錆との絶え間ない闘いとそれを支える橋守の存在、地元の悲願であった余部駅誕生の経緯などを、当時の設計技師のプロフィールや現場のエピソード、工事記録写真や図面・報告書、新聞記事などで再現するとともに、新駅誕生のニュース映画など地元の方々の当時の映像も取り込んで、ていねいに表現しており、一見淡々とした描写の中に歴史の重みとそれに関わった人々の思いが伝わってきます。

第14回土木学会映画コンクール優秀賞

企画：建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所

制作：映画「万代橋」委員会・中央映画社

社団法人北陸建設弘済会

1990年 22分

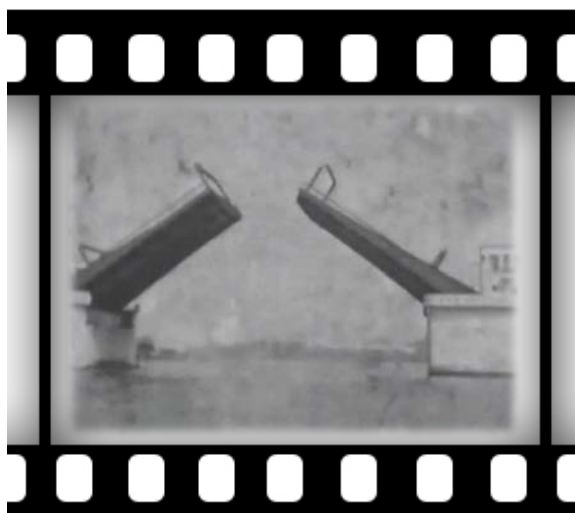
## 時を越えて-名橋・万代橋-

この作品は、日本の大河、信濃川河口に開けた町、新潟町と沼垂町を結ぶ架橋建設の請願から物語が始まります。明治19年住民悲願の橋(木橋)が竣工されました。時代が激動の昭和へ入ってからは、近代技術も進み鉄筋コンクリートが材料として選択できるようになり、また信濃川が中流部で大河津分水によって流量が調整されるようになったため、川幅が狭くなり橋長を短くすることができました。そしてなにより橋脚基礎工に関東大震災の復興橋梁に導入されたケーソン工法が取り入れられ、安定した地盤まで橋脚がとどいたことで、重量構造物が建設可能となりました。建設にあたっては、設計上もっとも美観を考慮し、施工にあたっては、コンクリート型枠は一枚一枚手カンナをかけたといいます。世界恐慌の昭和4年によくぞこれ程の素晴らしい橋が施工できたものと感心せざるを得ません。



かちどき

## 勝鬨橋



企画・製作：土木学会土木文化映画委員会

(土木技術映像委員会の前身)

1940年 5分36秒

当映像は文献記録等から、昭和14年から15年にかけて土木学会土木文化映画委員会が製作したと推定されます。

5分36秒のモノクロ無声映画で、タイトルなどが入っていないことから、完成版の手前の編集用の撮影映像と思われるが、「勝鬨変電所」の看板の映像からスタートして機械室の中で操作盤に向かい実際に操作する職員の様子や、勝鬨橋が徐々に開いていき、大型船舶が通航するシーンなどが克明に映し出されています。

そして、勝鬨橋は昭和15年に開通した「シカゴ型双葉跳開橋」で、「海運と陸運の共栄」を目指し、また、開戦で中止となった東京オリンピックと万博のための東京の海の玄関として建造された世界に誇る可動橋です。